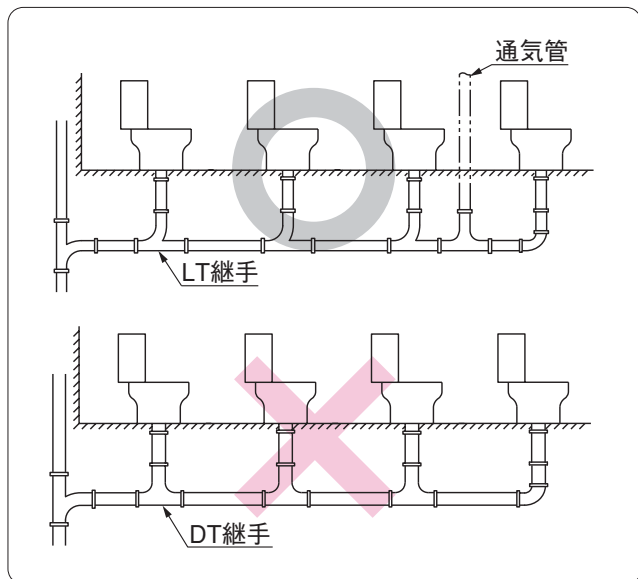


施工上の注意

排水管接続について

便器の排水能力に悪影響を与えたり、封水が切れたり、サイホン持続による騒音の原因になりますので、排水管接続時には以下のことにご注意ください。

※排水管の詰まりや通気がない場合、排水能力低下・騒音・封水切れ・連立された他器具の封水への影響が生じるおそれがあります。排水経路が適切であること（詰まりの有無、配管設計・通気設計）を事前にご確認ください。

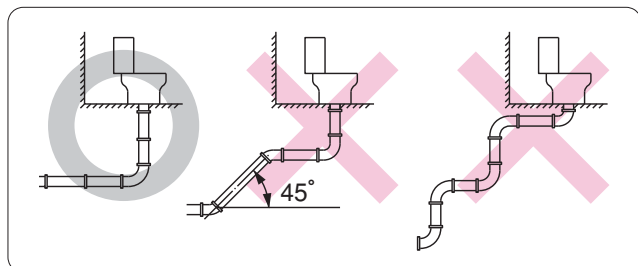


※DT継手は通気不良となる危険性があるため、使用しないでください。

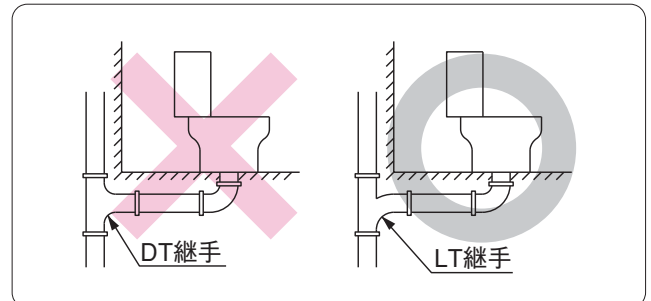
※DL継手を使用すると、詰まり・排水性能の低下・騒音・排水切れへの影響が生じるおそれがあるため、**便器直下と水平方向にはLL継手をおすすめします。**

1. 排水マス・排水立管に接続する際の注意

排水管接続の際は、管を屈折させたり曲がり数を多く使用したりすることは避けてください。もし、やむを得ずこのような排水管接続を行う場合は、1階であっても2項に示すような通気管を立ち上げてください。

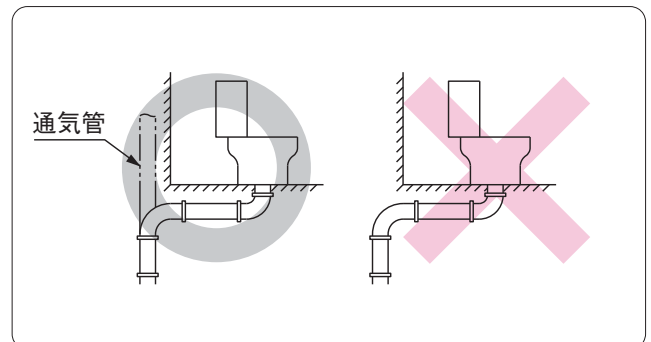


また、排水立管との接続の際、DT継手は通気不良となる危険性があるため、使用しないでください。



2. 2階以上にトイレを設置する場合の注意

排水管内で大きな圧力変動が起こる危険性があるため、必ず通気管を立ち上げてください。



3. トルネード便器を設置する場合の注意

上述のおすすめできない配管で設置されると配管内でサイホンが発生し、水たまり面水位が低下する場合があります。

試運転時に大洗浄を必ず行い、水たまり面の状態をご確認ください。詳しくは76ページを参照してください。水たまり面の水位が低下した場合は、各商品の施工説明書の記載内容に基づき、調整してください。

また、便器直下の排水管で自己サイホンを抑制する機能を持つ「ツイントルネード洗浄便器用排出管」をご案内しています。詳しくは99ページに記載していますのでご参照願います。

※防振シート（HR 800N：壁排水便器専用）床排水便器の場合、主に排水管が床下を通り2重スラブ構造であるため、固体伝播音は床の空間で遮断され、階下に響くことはありません。したがって防振シートは必要ありません。